

結城秀康生誕450周年記念×刀剣乱舞 ONLINE
令和6年度夏季特別展

「天下人の子」結城秀康と一族・家臣

令和6年(2024)、結城秀康の生誕から450年目を迎えます。これを記念し、秀康ゆかりの地に立つ、福井市立郷土歴史博物館(福井市)、結城蔵美術館(茨城県結城市)、福井県立歴史博物館(福井県)の三館が連携して、順次、秀康の事績を紹介する展覧会を行うことになりました。

さらに、各館の展覧会では、秀康ゆかりの刀剣が展示されることから、「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボレーションが決定しました。さまざまなイベントや、コラボグッズの販売などを実施し、記念事業を盛り上げていきます。

これら各地の展覧会で最後を飾るのが、当館の特別展「天下人の子」結城秀康と一族・家臣」です。

秀康は、「天下人」徳川家康の子でありながら、冷遇されて2度も他家へ養子に出され、弟の秀忠に徳川家の惣領や江戸幕府の将軍を継がれてしまったというように、「不遇」な人生を送ったと捉えられることが多いように思います。しかしながら、秀康に関する良質な史料を改めて検討していくと、秀康は、家康・秀忠からむしろ信頼・尊重され、江戸幕府樹立の過程で重要な役割を果たしていたことが見えてきました。また、本多富正ら家臣たちの支えも得て、越前を統治し、福井藩の礎を築いたことも分ります。さらには、秀康の子どもたちは、各地の藩主として治政に努め、松平家の繁栄を築いていくことになりました。

こうした秀康の事績や、秀康の子どもや家臣の動向について、北陸新幹線福井・敦賀開業という機会を捉えて、県内外に広く紹介していきます。

1. 秀康の運命

本章では、「天下人」家康の子、秀康の人生を辿ります。

秀康は家康に冷遇され、他家へ養子に出されたと言われることもあります。良質な史料では、家康の本心はわかりません。むしろ、天正12年(1584)の豊臣家への養子については、羽柴(豊臣)秀吉が小牧・長久手の戦いの講和条件として、敵対する家康の「惣領子」(財団法人前田育徳会蔵文書)、すなわち、徳川家を継ぐべき子で、価値の高い人質となる秀康を養子として求めた結果であり、政治的な駆け引きによるものでした。また、天正18年の結城家への養子についても、結城晴朝による養子願いや、秀吉による養子整理や関東統治政策など、やはり政治的な駆け引きの結果でした。秀康は政治情勢の荒波に翻弄され、「不運」な人生を送ったとも言えますが、そうした逆境でこそ、徳川・豊臣・結城の各家で学ぶことも多かったかもしれません。本展示にて「刀剣乱舞ONLINE」との



雨田光平作 結城秀康坐像(当館蔵)

コラボで注目される天下三名槍の1つ、御手杵〔レプリカ〕(結城市蔵)は、結城家から秀康さらにはその子孫へと受け継がれた槍の複製です。

慶長3年(1598)に秀吉がなくなったのち、家康は、秀康を五大老もしくは准大老に推挙するなど高く評価し、上方(京都周辺)の政治工作の懐刀としました。一方、秀忠を徳川家継承者で江戸を守る存在として位置づけていました。そして、秀康と秀忠の兄弟はそれぞれの役割を弁えつつ相手を尊重し合っていたように見えます。慶長5年の関ヶ原の戦いでは、秀康は北陸の雄・上杉景勝の押さえを命じられ、その功績により加増高全国一となる越前68万石を与えられました。それ以降、加賀の前田家や畿内の豊臣家を押さえるため、武芸に秀でた人材を登用したり、北庄城や城下町を建設したりするなど、軍事に重点を置いた越前統治を進めました。また、上方の伏見城に在城することも多く、公家や西国諸大名との交渉を行いました。しかし、慶長12年、病気により、惜しくも34歳の若さでこの世を去り、家康の天下取りの構想は練り直しを迫られることになりました。

このように、逆境を潜り抜けた秀康は、家康・秀忠から信頼・尊重され、徳川政権の樹立にあたり重要な役割を果たすとともに、福井藩の礎をも築いた人物と言えます。

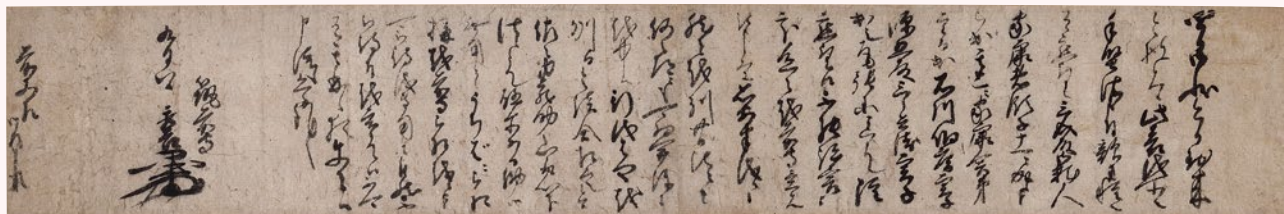
2. 秀康の子どもたち

本章では、秀康の子どもたち、すなわち、長男の松平忠直、次男の忠昌、三男の直政、五男の直基、六男の直良らについて、紹介していきます。

慶長12年(1607)、秀康の死に伴い、忠直が13歳の若さで北庄(のち福井)藩を相続しました。しかし、慶長17年に久世騒動と呼ばれる家中を二分する大騒動が勃発し、幕府の裁許により家臣の一部を失うことになりました。その翌々年、忠直率いる越前勢は大坂冬の陣に参戦し、功を焦って多くの戦死者を出して家康に叱責されましたが、翌年の夏の陣では、本丸一番乗りを果たし、最大数の首級をあげ、真田幸村を討ち取るなど、天下第一の戦功をあげました。家康が「そなたの父秀康が天下有名の士を招き養ったことで、この度天下の耳目を驚かせる大功を立てることができた」



御手杵〔レプリカ〕(結城市蔵)



(天正12年) 9月8日付 羽柴秀吉書状(尊経閣古文書纂)(財団法人前田育徳会蔵)



大坂夏の陣図屏風
右隻〔複製〕
(大阪城天守閣蔵)



国宝 太刀 銘 国行(来)
(号明石国行)
(刀剣博物館蔵)

と述べたという逸話(『国事叢記』)のとおり、秀康の軍拡政策が時に負の側面を見せる場合もあったものの、徳川氏による天下統一の総仕上げの合戦で花を咲かせたとも言えるでしょう。

その後、忠直は秀忠とは折り合いが悪く、乱行が続いたため、元和9年(1623)に配流となり、翌年に次男の忠昌が越後高田藩から転封となり、福井藩を継承しました。同時に、三男の直政、五男の直基、六男の直良は、各々、越前大野藩、越前勝山藩、越前木本藩を分与されました。その後、直政は出雲松江藩主に転じ、松江松平家の祖となりました。直基は播磨姫路藩主となり、その家系は転封を繰り返しながら、前橋松平家へと繋がりました。直良は越前勝山藩主、越前大野藩主を経て、子の直明が播磨明石藩主として明石松平家の祖となりました。

この家系に伝来したのが国宝 太刀 銘国行(来)(号明石国行)(刀剣博物館蔵)で、「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボで注目される逸品です。このように、秀康の子どもたちやその家系は全国各地の藩主となり、江戸時代を通じて繁栄していきました。

なお、四男の吉松は早世し、竹治郎は出家して敦賀の浄土宗西福寺21世となりました。

3. 越前松平家の重臣、両本多

本章では、越前松平家の重臣である本多富正や本多成重に注目しつつ、福井藩初期家臣団の実態について紹介します。

富正は叔父の本多重次のもとで育てられ、重次実子の成重とは同い年の従兄弟でした(秀康より2歳上)。重次は幼少期の秀康を養育したとされ、秀吉の養子となった秀康に成重をお供させ、その後、成重の

代わりに富正を遣わしました。つまり、富正・成重ともに、若かりし頃の秀康と関わりがあったのです。

富正はそれ以降、秀康の側に仕え、次第に頭角をあらわし、慶長6年(1601)に秀康が越前を拝領した際には北庄城を受け取りました。秀康が上方で活動することが多かった一方、富正は「万端之用人」(『当代記』)、すなわち、家中の万事を司る人物として福井藩の内政を支えました。同時に、府中を領し、府中の町並みも整備しました。慶長17年の久世騒動の後、幕府により越前丸岡城に配された成重とともに、忠直を補佐しました。富正・成重の両名は大坂冬・夏の陣で先陣を務め、とくに夏の陣では目覚ましい戦功をあげ、合戦を勝利に導いており、その武勇も注目されます。本展示では、富正が大坂の陣で使用したと伝わる旗指物や、成重が所用した甲冑などを展示します。

元和9年(1623)に忠直が配流となり、忠昌が福井藩主となりましたが、富正は藩主交代の混乱をおさめ、依然として福井藩主を支え続けました。幕府からは「越前のかため(固め)」(佐久間家文書)、越前を守護する者として高く評価されています。一方、成重は独立大名として丸岡藩主に取り立てられ、福井藩とともに、江戸幕府による北国支配のかなめの一つとして位置づけられました。また、成重四男の重方の家系は福井藩の家老として続きました。

なお、秀康の家臣を網羅的に記した結城秀康御給帳写(当館蔵)を展示し、家臣団の実態も紹介します。



本多成重所用 横矧二枚胴具足(国立歴史民俗博物館蔵)

令和3年度より、福井新聞に福井県の文化施設の職員が寄稿しています。福井県立歴史博物館の学芸員は、新聞に月に1回掲載される「歴史の扉」欄で、日々の調査の中で気がついた面白いこと、楽しいことなどを執筆しています。福井新聞社より「歴史の扉」の画像提供とご協力を得て、過去に掲載された「歴史の扉」を紹介させていただきます。

令和5年(2023年)1月28日(土曜日)



約150年前明治3年(1870)から後のことです。役人



瓜生由起絵(福井県立歴史博物館学芸員)

150年前洋服が正装に

や軍人、警察官などの制服が洋服とされ明治5年には男

性皇族や軍人役人の正装も洋服と定められました。その後明治19年に女性の正装も洋装とされ皇族の女性たちが、それまでの十二単や袴・袴といった和装に代わりドレスを着るようになりました。今回は、こうした明治時代の皇族女性たちのドレス姿の写真を写真師・丸木利陽の

作品から紹介します。丸木は福井出身で明治天皇の公式肖像写真・御真影を撮影した御用写真師として有名な人物です。では、写真を見てみましょう。この写真の女性は半袖で胸のところが開いたドレスを着て、腰から長いマントを付けています。この形は、もっとも正式な服装「大礼服」です。ドレスには、レースやリボン、刺繍がふんだんに使われ、羽や宝石のついたアクセサリも含めて、白黒の写真でも豪華な装いだといわれます。

これらのドレスは、当初はドイツやフランスなどの外国に注文していました。しかし、皇后から「国産品を使うように」との方針が出され、布の生産や刺繍や仕立てを国内で行うようになっていきました。丸木が撮影した写真のなかにも、和風の模様のドレスを着たものが見られます。また、当時の日本にとって皇族女性のドレス姿には大きな意味がありました。日本が西洋の国々と付き合う場で「日本も西洋の国に負けない文明国である」ということを示す役割があったのです。これらのドレス姿の写真を、明治天皇・皇后・皇族を含む明治天皇・皇后・皇族徳川慶喜や福沢諭吉・歌舞伎役者七世松本幸四郎らの写真を、県立歴史博物館で展示しています(5月9日まで)。

令和5年(2023年)2月18日(土曜日)



戦国時代の三英傑の一人、徳川家康を主人公とするドラマが始まりました。これを受け、家康や戦国時代への関心が高まっているように感じます。当館でも、家康が描かれた資料、姉川合戦図屏風の画像を利用したいという申請がたくさん届いています。

みなさま、覚えていてほしい。うか。実はこの屏風、1年前の「歴史の扉」でも紹介し



大河内勇介学芸員(日本中世史)

姉川合戦描写どうなる

ました。今回は家康に焦点を当て、改めて屏風の楽しみ方を紹介します。

元亀元年(1570年)当時29歳の数え年の家康は、盟友の織田信長を助けるべく、三河(愛知県東部)から近江(滋賀県)へ出兵しました。家康・信長の軍は姉川を挟んで、敵の朝倉・浅井の軍と対峙し、熾烈な合戦を繰り広げました。家康の援軍により、信長は勝利を収め、天下統一への歩を進めたのです。

当館が所蔵する姉川合戦図屏風は、この合戦を描いた現存唯一のもので大変貴重です。屏風を見ると、左端には、家康の旗印、三つ葉葵の旗が描かれています。家康が好んで使用した「厭離婆土、欣求淨土」(汚れたこの世を嫌い、極楽浄土を喜んで求める)という旗も見えます。この言葉はドラマでも使われています。また、屏風全体では、家康の家臣たちの活躍が描かれています。とくに、家臣随一の猛将、本多忠勝の突撃が

目を引きます。天下の名槍、蜻蛉切を持ち、魔除けの神様である鐘馗の旗を掲げています。忠勝はドラマでも活躍していますよね。この屏風は、家康の事績を顕彰した書物(四戦記)をもとに、天保8(1835)年に林義雄によって作られた。徳川軍の活躍は少し誇張されて描かれた可能性もあり、屏風の内容が史実か否かは、別に検討が必要でしょう。ただ、この屏風と比較してドラマでは、姉川合戦がいかに描かれるのかというの、楽しみ方の一つと思います。当館では、ドラマに合わせて、春に本屏風を展示します。どうぞお楽しみに。

令和5年(2023年)3月25日(土曜日)



「地図が描かれた屏風」を研究し始めて、かれこれ10年以上経ちます。構造は屏風で日本的なのに、題材が西洋の地図である上に、絵画資料として考える視点、歴史学の視点でいろいろ考えないと価値がわからない難物です。研究者に必要になります。

以前、紹介した駕籠も同様ですが、複雑だけれども誰にもさっと調べていない、面白い文化財が福井県内には実に多いと感じます。そして、そのことは福井県が誇る魅力であると思えます。

さて、「地図が描かれた屏風」は、さまざまな名前がついていますが、ここでは



有馬香織学芸員(中世史・歴史資料)

未知への憧れ描く屏風



「地図屏風」と呼ぶことにします。

地図屏風は、16世紀末頃から作られ、初期の地図屏風のうち3点が重要文化財で、世界図と日本図が対になっています。3点のうち1点は福井市の浄徳寺所蔵の品で、もう1点は浜市に伝来して今は若狭歴史博物館所蔵です。2点も福井県にあるのはすごいことだと思います。

今、世間で話題となっている

「地図屏風」と呼ぶことにします。

地図屏風は、16世紀末頃から作られ、初期の地図屏風のうち3点が重要文化財で、世界図と日本図が対になっています。3点のうち1点は福井市の浄徳寺所蔵の品で、もう1点は浜市に伝来して今は若狭歴史博物館所蔵です。2点も福井県にあるのはすごいことだと思います。

今、世間で話題となっている

令和5年(2023年)4月22日(土曜日)



今回は、博物館で働く学芸員についてお話しします。

学芸員の仕事は、主に四つあります。一つめは、古いもののうち、後世に残す必要のあるものを集めてきて、それを保管するという仕事です。二つ

「学芸員」という仕事



貴重な文化財を扱う学芸員—福井市の県立歴史博物館

めは、そうして集めてきたものがどのようなものなのか、いつごろのものなのかなどを調査・研究する仕事です。三つめは、四つめは、

仕事は、調査・研究の結果、明らかにしたことなどを展示というカタチでみなさんに説明することです。そして、四つめは、

博物館で行うイベントなどでみなさんに歴史に対する興味を持ってもらうことです。

学芸員になるためには、原則として、大学で専門の授業とともに学芸員になるための授業を受けて単位をとらなければなりません。決められた単位数をくれば、大学の卒業と同時に学芸員資格が得られますが、多くの人が大学院へと進んだり、期限付きの学芸員として働いたりして、研究しながら、あるいは働きながら学芸員を目指します。

学芸員は、毎年決まった数の募集があるとい



橋本紘希学芸員(近現代史)

今回の寄稿は…

うわけではありませんから、募集の情報を探して、自身の研究分野などをふまえて応募先を決め、試験を受けます。

そのため、地元ではないところで採用され、活躍している学芸員もたくさんいます。

ここに記したのは、古文書などを専門とする歴史の学芸員の場合ですが、他にも美術や考古学、民俗学の学芸員などお

り、それぞれに事情は異なります。興味がある人は、いろいろな分野の学芸員に話を聞いてみてください。

学芸員という仕事は、大変なこともあります。が、地域の歴史や文化を後世に伝えることのできる魅力的な仕事です。歴史や文化財に興味がある人は、ぜひ将来の選択肢に加えてみてはいかがでしょうか。

令和5年(2023年)5月27日(土曜日)



2024年春の北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、県内各地で準備が本格化しています。県内に鉄道が開通したのは、今から約140年前の明治15年で、柳ヶ瀬

心打たれた車窓の風景



杉津の景観 1962年(福井県立歴史博物館蔵)

(滋賀県長浜市)と金ヶ崎(敦賀市)を結ぶ路線がまず開通しました。その後、明治29年に敦賀と福井を結ぶ路線が開通しました。このときの敦賀―今庄間の路線などは、今は道路になっていいるなど、現在の路線と異なっています。この昔の路線を旧北陸本線あるいは旧北陸線とよびます。旧北陸本線の駅のなかに、杉津駅がありました。杉津は、山の中腹から日本海を眺めることができ、その風景は旅行者から大絶賛されました。杉津駅では、その風景に見惚れた嘉仁皇太子(後の大正天皇)が、列車の発車を遅らせたという逸話もあります。当時の旅行者はどのような風景を見たのでしょうか。明治時代の紀行文(旅の記録)によると、彼らは眼前に広がる海や海に突き出た山、山にかかる白い雲、そして海に向かって続く棚田などの風景に心打たれていたようです。杉津駅は昭和37年、北陸トンネル開通で路線が変更となったため廃止され、残っていません。し



今回の寄稿は…
伊藤 大生 学芸員
(歴史地理学)

かしその跡地は現在、杉津パーキングエリアとして利用されていて、今なお風景を楽しむことができます。鉄道の旅は、目的地に早く着くほかに、途中の風景を楽しむことも魅力です。見慣れた海や田んぼといった風景でも、駅や車窓から見ることになった良さを感ずることができるといいます。北陸新幹線の一

令和5年(2023年)6月24日(土曜日)



いまから75年前、昭和23年(1948年)6月28日、午後4時13分(サマ―タイムを採用していた当時の時刻では午後5時13分、福井県嶺北地方、現在の坂井市丸岡町付近を震源とした地震が発生

福井地震 知って備えて



傾いている大和百貨店の周辺で、家屋の再建が進められている=1948年、福井市



地震翌日の福井市街地。手前の部分(市街地西側)が全焼していることがわかる

しました。当時としては最大の震度6を記録した大地震「福井地震」です。被災地域は石川県南部から福井市南部に及びました。なかでも、震源に近かった丸岡町、春江町(いずれも現坂井市)をはじめ、菅原町、金津町(いずれも現あわら市)、森田町、福井市(いずれも現福井市)、松岡町(現永平寺町)は、建物の倒壊、火災の発生など大きな被害を受けました。死者は3500人を超え、家屋の倒壊・焼失は合わせて4万5千戸に達しました。なかでも福井駅周辺の市街地は、昭和20年(1945年)7月19日の「福井空襲」に

より焼失した状態から、ようやく復興を果たした直後の被災でした。さらに、7月25日には、大雨により、地震で損壊した丸岡川の堤防が中津島村(現福井市)付近で決壊し、福井市の新田家周辺から日野川に至る地域で大規模な浸水が起きました。それでも、がれきのなかから、福井の人々は再建に立ち上がりました。地震直後に福井市へ救援に來ていた米国軍医が、そのようすを家族への手紙に書いています。「建物のいっぽうの端が燃えていてそれを数人が消し、もういっぽうの端では、別の数人が早くも再建工事を始めていた」。福井の人々による素早い再建と、強い意志を感じてもらえれば幸いです。よ



今回の寄稿は…
瓜生 由起
総括学芸員
(中近世石造物)

令和5年(2023年)7月22日(土曜日)



みなさんは、戦国時代の福井と言えば、何を思い浮かべるでしょうか。今年4月、柴田勝家ゆかりの柴田神社と西光寺が中心となり、華やかな「越前北庄行列」が行われたことは記憶に新しく、勝家が注目されてきてい

「鬼柴田」さまざまな顔



柴田勝家『英雄三十六歌撰』福井県立歴史博物館蔵

と感ずります。今年は勝家の没後440年の節目でもあります。周知のとおり、勝家は戦国時代に天下統一を目指した織田信長の重臣で、朝倉氏没落後に越前を治めた人物です。写真の肖像のような、眼光鋭く、髭を生やした、迫力ある姿で描かれ、

従来から、武勇に秀でた猛将として知られています。「鬼柴田」などの異名も持ちます。当時、勝家と面会したポルトガル人は、「信長の時代の日本でもっとも勇猛な武将であり果敢な人」と評したほどです(『十六・七世紀イエズス会日本報告集』)。

しかし一方で、ドラマなどでよく描かれるような武勇一辺倒の人物で、当時の日本の大部分を支配した政権の幹部が務まるのかという素朴な疑問も湧きます。そうした観点で改めて検討すると、勝家による京都での行政文書の発給や公家への饗応、自身の支配領域での民政など、政治的な動向を追うことができます。とりわけ注目されるのは、勝家による越前支配です。勝家は北陸方面の攻略を目指しながらも、戦により荒廃した村を復興するという政治的課題にも対処していました。



今回の寄稿は：大河内勇介学芸員(日本中世史)

令和5年(2023年)8月26日(土曜日)



みなさんは食事の時にどんな食器を使っていますか？越前漆器、ガラスやプラスチックでできたものもありますが、やきものが一番多いのではないのでしょうか。今回は、福井県が誇るやきもの、越前焼について紹介し

昔も身近な越前焼



穴窯の復元模型 県立歴史博物館

ます。越前焼は平安時代末期の12世紀末に丹生郡越前

町の小曾原地区で始まりました。愛知県の常滑焼などの技術を導入して成立したと考えられています。

液体やお米などを貯蔵しておくために使う甕や、料理に使うすり鉢などを大量に作っていました。室町時代には日本海側で一番大きな生産地になりました。日常生活に欠かせない越前焼の大甕やすり鉢は北海道から島根県まで、日本海側の広い範囲で発見されています。その越前焼は穴窯と呼ばれる、山の斜面をトンネルのように掘って築いた窯で焼いて作られていました。写真の左側、上り坂になっているところに甕や甕を置いて、右側の低くなっているところで燃料の薪を燃やします。すると、窯の中が1300℃もの高温になります。そうすることで、柔らかい粘土で作られた甕や甕が水を通さないほど固く、頑丈になるのです。

料となる粘土が豊富で、窯を築き、燃料となる薪を手に入れやすい山林にも思われています。そして、出来上がった越前焼は近くを流れる天王川を使って運んでいたと考えられています。その後、徐々に川から遠い場所に窯を築くようになりますが、この時代には峠を越えて直接、越前海岸に越前焼を運んでいたとも考えられています。越前焼は、この時代には峠を越えて直接、越前海岸に越前焼を運んでいたとも考えられています。越前焼は、この時代には峠を越えて直接、越前海岸に越前焼を運んでいたとも考えられています。



今回の寄稿は：一瀬諒学学芸員(美術史学)

9月

- 7日(木) 東藤島小学校3年生 団体見学
- 8日(金) 荻野小学校6年生 団体見学
- 12日(火) 博物館運営協議会
- 14日(木) 写真展「古写真に見る川辺の風景」スタート(11月26日まで)
- 15日(金) 麻生津小学校3年生 団体見学
- 19日(火) 旭小学校3年生 団体見学
- 26日(火) 清水南小学校3年生 団体見学
- 28日(木) 昭和の暮らし(秋)模様替え
- 29日(金) 山代小学校3年生 団体見学

10月

- 4日(水) 福井市立郷土歴史博物館 来館(資料借用)
- 5日(木) 長野県南箕輪村議会視察
- 11日(金) 富山大学学生 来館(資料調査)
- 14日(土)・15日(日) 永平寺文化財調査
- 21日(土) 特別展「描かれた川と人々～越前・若狭の利水の歴史～」開会式・内覧会、スタート(11月26日まで) 特別展展示解説
- 23日(月) 社南小学校3年生 団体見学
- 24日(火) 松岡中学校1年生、豊小学校3年生 団体見学
- 26日(木) 明道中学校2年 職場体験(27日まで) 森田中学校1年生、大東中学校1年生、美山中学校1年生 団体見学
- 27日(金) 坂井中学校1年、鳴鹿小学校3・4年生 団体見学
- 28日(土) 特別展記念講演「江戸時代の水争いと人々 ～十郷用水を中心に～」(講師：東京大学史料編纂所学術専門職員 黒滝香奈先生)
- 30日(月) 鶴小学校3年生 団体見学

11月

- 3日(金祝) 教職員互助会 無料開放日
- 5日(日) 特別展展示解説
- 6日(月) 日新小学校3年生、筑波大学 団体見学
- 7日(火) 福井大学 団体見学
- 8日(水) 織田中学校1年生、鶴小学校5年生 団体見学
- 9日(木) 松本小学校3年生 団体見学
- 10日(金) 円山小学校3年生 団体見学
- 11日(土) 特別展移動講座「越前三大川をめぐる」
- 13日(月) 森田小学校3年生 団体見学
- 14日(火) 森田小学校3年生 団体見学 浜町・足羽川WG 特別展視察
- 15日(水) 県立若狭歴史博物館 来館(資料返却)
- 16日(木) 春江東小学校3年生、清水北小学校3年生 団体見学 出前授業(栗野南小学校) 日本塗装工業会 社会奉仕活動
- 17日(金) 雄島小学校3年生、細呂木小学校6年生 団体見学
- 18日(土) 関西文化の日 常設展示無料開放(～19日まで)
- 20日(月) 高松小学校3年生 団体見学
- 21日(火) 木田小学校3年生 団体見学
- 23日(木祝) 教職員互助会 無料開放日

12月

- 24日(金) 湊小学校3年生 団体見学
- 25日(土) 特別展展示解説
- 26日(日)・27日(月) 永平寺文化財調査
- 30日(木) 写真展「平安の救いの姿～福井の歴史と文化をめぐる 福井県の指定文化財～」スタート(令和6年5月7日まで)
- 1日(金) 酒生小学校3年生 団体見学
- 5日(火) 宝永小学校3年生 団体見学 越前市万葉館 来館(資料返却)
- 6日(水) 県立若狭歴史博物館 来館(資料返却)
- 7日(木) 坂井市龍翔博物館 来館(資料返却)
- 8日(金) 大関小学校3年生、足羽小学校6年生 団体見学 高浜町郷土資料館 来館(資料見学)
- 12日(火) 清水北小学校5年生 来館見学 福井市立郷土歴史博物館 来館(資料調査)
- 13日(水) 福井市立郷土歴史博物館 来館(資料返却) 府中市美術館 来館(資料調査)
- 14日(木) 坂井市教育委員会 来館(資料調査)
- 16日(土) ふくい歴博講座「唐人来航と古代越前・若狭」
- 28日(木) 昭和の暮らし模様替え(冬)

1月

- 18日(木) 上文殊小学校3年生 団体見学
- 20日(土) ふくい歴博講座「県立歴史博物館の館蔵品から見るやきものの歴史と魅力」
- 23日(火) 日之出小学校3年生 団体見学
- 25日(木) 南条小学校3年生、岡保小学校5・6年生 団体見学
- 26日(金) 平章小学校3年生、福井大学 団体見学 出前授業(加戸小学校)

2月

- 2日(金) 武生西小学校6年生 団体見学 出前授業(上志比小学校)
- 7日(水) 志比北小学校3年生 団体見学
- 9日(金) 三国南小学校3年生 団体見学
- 16日(金) 上志比小学校3年生 団体見学
- 21日(水) 福井県陶芸館 来館(資料借用)
- 22日(木) 博物館運営協議会
- 26日(月) 志比小学校3年生 団体見学
- 29日(木) 三国西小学校3年生 団体見学

結城秀康生誕450周年記念×刀剣乱舞ONLINE
令和6年度夏季特別展

「天下人の子」結城秀康と一族・家臣

開催期間：令和6年7月20日(土)～8月25日(日)

※会期中無休

観覧料：一般400円 大学・高校生300円

小中学生・70歳以上の方200円

※20名以上の団体は2割引

※会期・内容は、予告なく変更される場合があります。

公式サイトなどで最新の情報をご確認の上、ご来館ください
ますようお願い申し上げます。